

VI 学生の就職活動の支援

本学では、学生に対する就職活動の支援は、＜就職支援室－ゼミ＞の連携で行っている。ゼミにおける就職支援については、IIで述べたので、ここでは、就職支援制度、活動の現状、就職実績、内定時期の要因分析および今後の課題について、まとめる。

1 就職支援制度

早期化する採用活動に備え、低学年から就職に対する意識付けと基礎学力の向上に取り組む、内定の早期実現と就職率100%を目指して、就職支援に取り組んでいる。

1～4年次までの就職支援制度は、図表6-1の通りである。1年次では、前期ゼミIで数学、後期ゼミIで国語を中心とした一般常識に取り組む。また、必修科目「経済・経営の現場を知る」で業界の現状に触れ、「ボランティア論」と「ボランティア体験」で、ボランティア活動を学ぶ。

2年次では、文章力養成を主テーマとするゼミIIにおいて、自分史と履歴書の書き方を練習している。また、就職関連科目として「起業家塾」、「ビジネスマナー」を開講している。

3年次では、企画・提案力形成をメインにしたゼミでの調査研究に加えて、ゼミ教員による学生に対する個別指導・支援を行っている。また、就職関連科目として「キャリア開発」、「時事問題」、「インターンシップ」を開講している。特殊講義「就職講座」を準必修科目として就職指導プロパーの時間として設定し、様々な指導・支援（セミナー、ガイダンス等）を行っている。3年次の秋からエントリー、企業説明会等本格的就職活動が始まる。就職活動に関しては、常時、就職支援室とゼミ担当教員が相談等に応じている。

4年次は、ゼミにおいて卒業論文作成に入るとともに、他方で本格的就職活動が展開される。前期は、3年後期から引き続き就職活動が展開される。後期は、卒論に注力する。

以上が本学の基本となる就職支援制度である。

2 就職支援活動の現状

平成19年度の就職支援活動の主な特徴は次の通りである。

(1) 就職関連科目の配置

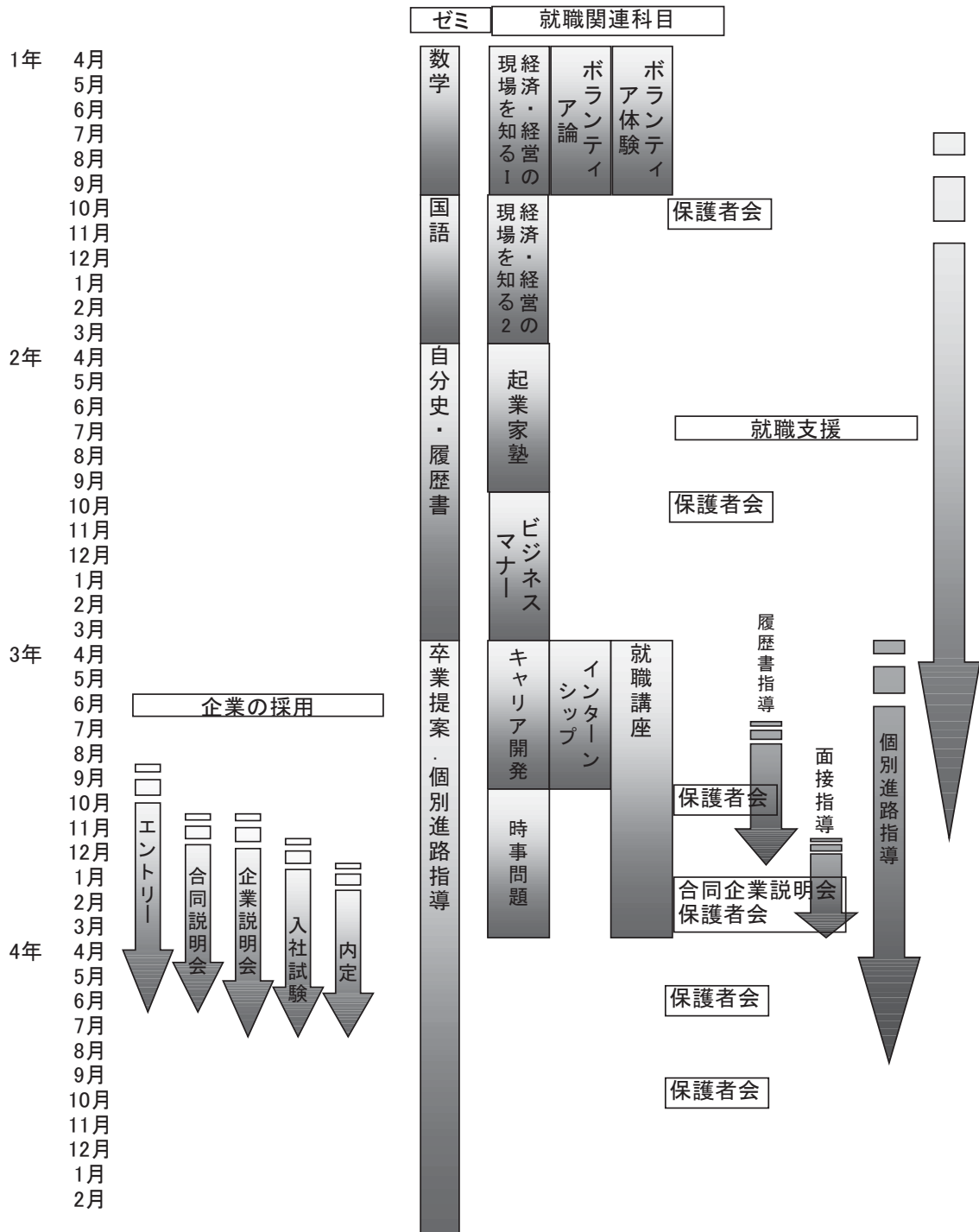
上記のように、1年次から就職関連科目を配置しているが、就職率100%を達成できないという現状から見ると、就職への動機付けや学生の立場に立ったキャリア形成などにまだまだ不十分さがある。この作業は一定に進んだが、次年度には完成させる必要がある。

(2) 就職支援室等による支援

就職支援のための組織的活動として、就職支援室（常勤2名、パート2名）と教員による就職委員会の活動、またゼミ教員によるゼミ学生の指導を充実させ、常時、学生の相談に応じられる人的組織を整えている。また、就職支援室には、いつでも学生の情報収集のためのパソコン、書籍や資料、求人情報の閲覧、相談に対応する相談員が常駐しているなどの体制をしいている。

図表6-1 学生の就職支援制度

就職関連のスケジュール



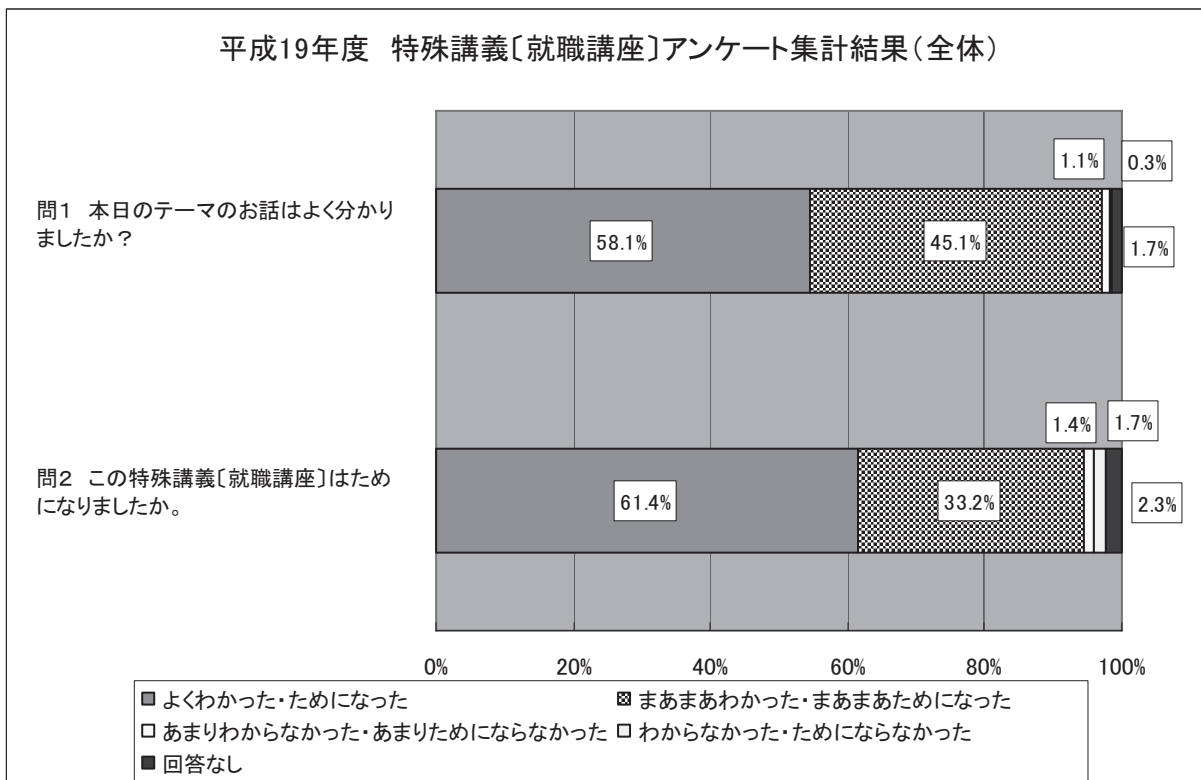
(3) 就職講座

平成19年度は、図表6-2のように、就職のための科目として特殊講義「就職講座」（月曜5限）を3年次に設置した。ここでは、働く意義、職業適性、新聞の読み方、自己発見、対話力、企業説明会の活用法、企業研究法、面接試験の対策などを専門講師により実習を交えた授業を行った。また、就活の意欲向上と試験対策などを身近に感じさせるために、卒業生による実体験講座を開催した。さらに、この講座では、ほぼ毎回一般常識テストを実施し、筆記試験対策を講じている。

図表6-2 特殊講義「就職講座」(3年次・後期科目)の実施概要

月 日		概 要	講 師
1	10月1日(月)	働くとは? 業種と仕事 (職業ガイダンス DVD 視聴) 就職活動の進め方の説明	宝寄 朝日由香 氏
2	10月15日(月)	自分に合った職業は? [一般職業適性検査 GATB]	吉川
3	10月22日(月)	①新聞の読み方 ②就職講演会「企業が求める人材と就職活動」	新潟日報 朝日由香 氏
4	10月30日(火)	自己発見 [これまでの自己の道のりを振り返る]	中村容子 氏
5	11月5日(月)	卒業生懇談会 [就職活動と現在の仕事観]	伊吹
6	11月12日(月)	エントリーシートの作成法 [履歴書、自己紹介書、志望動機などの書き方]	坂野
7	11月19日(月)	対話力を身につける [コミュニケーショントレーニング]	朝日由香 氏
8	11月26日(月)	合同企業説明会の参加と活用法 [内定者の体験談発表を踏まえての話]	中村容子 氏 朝日由香 氏
9	12月3日(月)	企業研究の方法(1) [グループワーク] ・テーマを決めて実際に調査研究する	中村容子 氏 朝日由香 氏
10	12月10日(月)	企業研究の方法(2) [グループワーク] ・テーマを決めて実際に調査研究する	中村容子 氏 朝日由香 氏
11	12月17日(月)	面接試験対策Ⅰ [面接試験の準備とマナー]	朝日由香 氏
12	12月26日(水)	面接試験対策Ⅱ [面接試験の実習]	中村容子 氏 朝日由香 氏
13	1月7日(月)	面接試験対策Ⅲ [グループ面接の実習]	中村容子 氏 朝日由香 氏
14	1月21日(月)	課題レポートの提出	就職委員
15	1月28日(月)	まとめの講義	朝日由香 氏

図表 6-3 特殊講義「就職講座」(3年次・後期科目)のアンケート結果



(4) 相談指導

もう1つは、相談、カウンセリングの充実・強化である。週2日間、長岡ジョブカフェから相談員を派遣してもらい、学生の相談、指導に対応していただいた。また、特に、就活に消極的な学生やうまくいかない学生を中心に外部の専門家による相談・指導(カウンセリング含む)を適宜実施した。(前期：2回、後期：23回)

上記のような支援活動を、さらに充実するために、次年度からは就職関連科目の連携を密にするための講義内容を調整すると共に、特殊講義「就職講座」を通年科目とし3年生全員が必修的に選択するようにしたい。また、求人の早期化に対応した就職活動の早期化促進策を講じる必要がある。

3 就職実績

4期生までの就職実績は、就職率 92~96%（就職内定者数／就職希望者数）を維持し、他大学と比べても良好な成績を収めてきたと言える。大学院進学者も毎年、10名を上回っている。主な就職先と進学先は、次の通りである。しかし、数%は未内定者が出ており、就職率 100%には至っていない。

- ・ 主な就職先—日本精機株式会社 株式会社コメリ アークランドサカモト株式会社 株式会社大光銀行 株式会社アークベル 越後ながおか農業協同組合 越後さんとう農業協同組合 株式会社ハードオフコーポレーション 日本ユニシス株式会社 越後製菓株式会社 セコム上信越株式会社 クリナップ株式会社 株式会社 PLANT ほか（順不同）
- ・ 主な進学先—筑波大学大学院システム情報工学研究科 名古屋大学大学院経済学研究科 新潟大学大学院現代社会文化研究科 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所 横浜市立大学大学院国際総合科学研究科 福島大学大学院経済学研究科 和歌山大学大学院 上越教育大学大学院学校教育研究科 ほか（順不同）

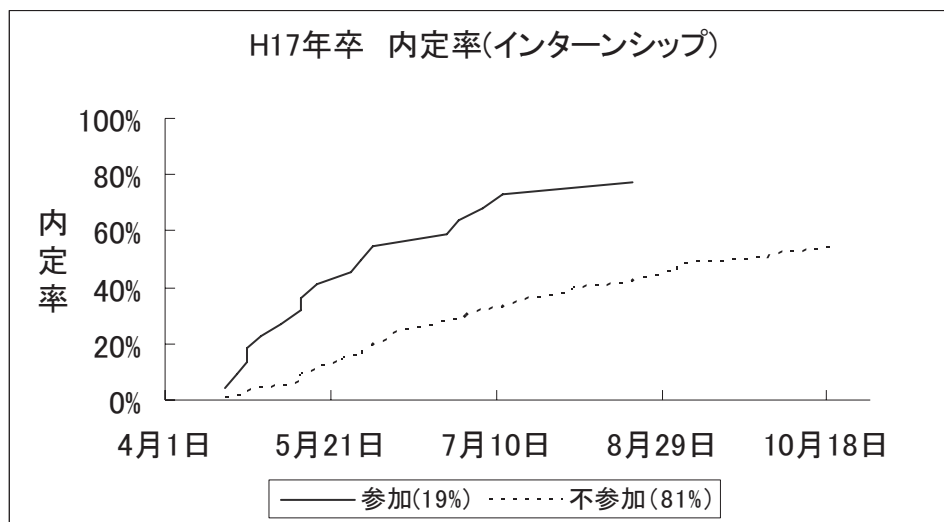
4 内定時期の要因分析

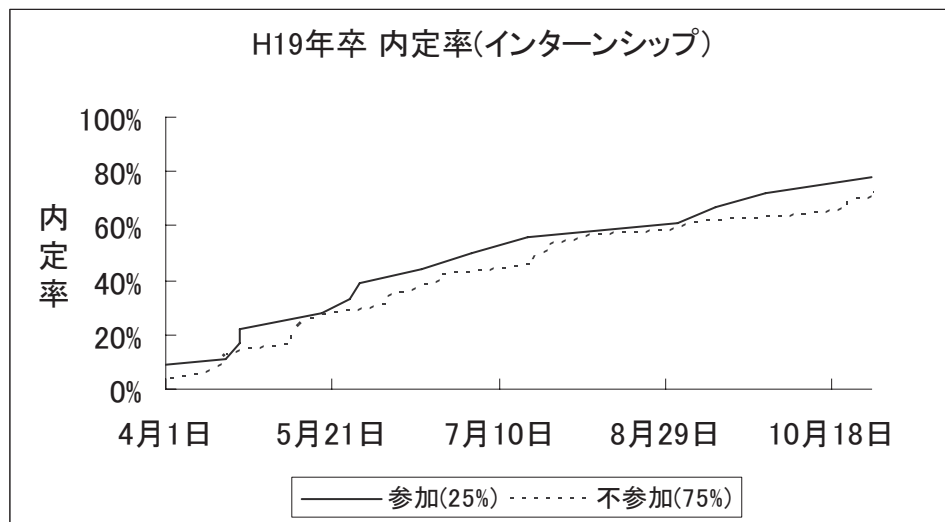
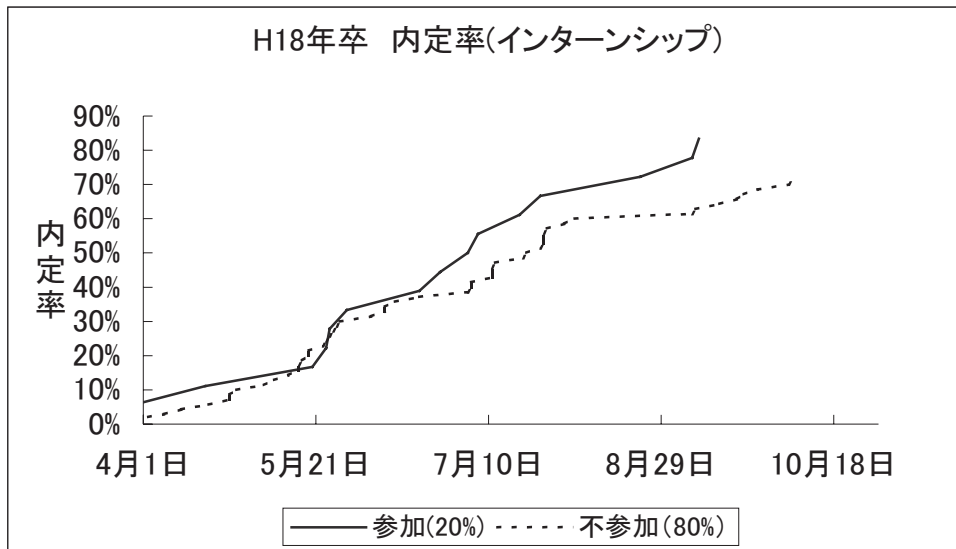
採用活動の早期化とともに、内定時期の早期化が進んでいるが、本学の場合は4年次の後期にずれこむケースがかなりあり、卒業論文作成の障害になっているのが実態である。卒業論文をきちんと仕上げるためにも、夏休み前の内定獲得が重要である。

そこで、過去の事例を利用して、学業成績以外の就職に優位な要因を探るため、インターンシップと課外活動（クラブ、サークル、学友会等）の参加の有無による就職内定時期の比較分析を行ってみた。結果は次の通り、これら活動に参加した学生の早期内定傾向をはっきりと読み取ることができる。

（1）インターンシップと内定時期

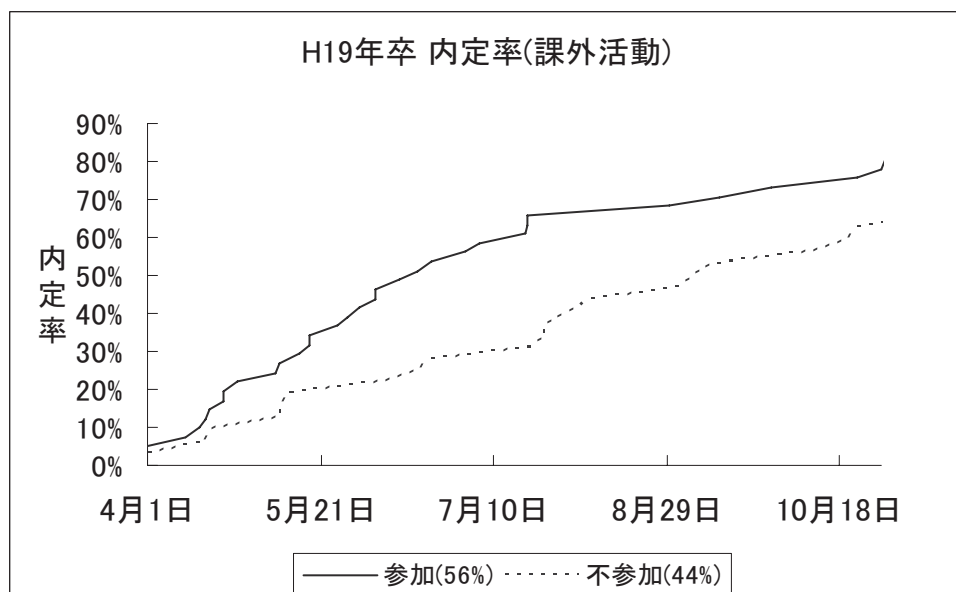
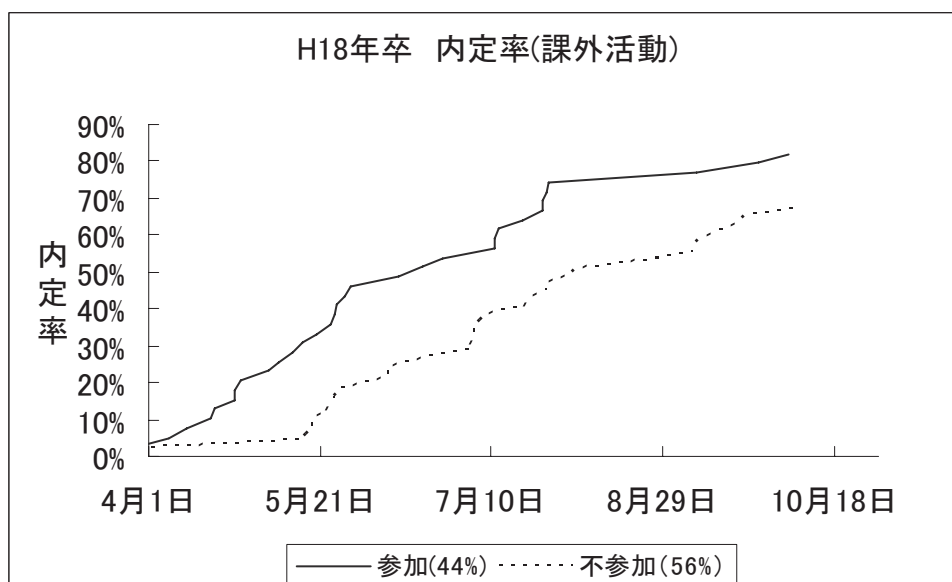
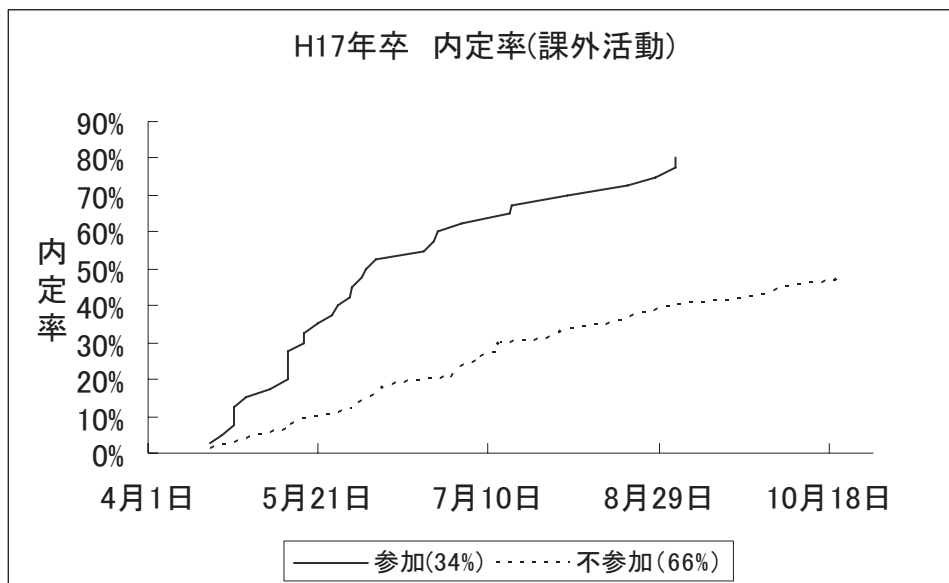
下図から明らかなように、インターンシップに参加した学生は、受講しなかった学生と比較すると早期に内定を得ている。特に平成 17 年卒業生では違いが大きく現れている。年々参加者が増えているため、平成 19 年卒業生では、大きな違いにはならなかった。





(2) クラブ・サークル・学友会などの課外活動と内定時期

下図から明らかなように、課外活動に参加した学生は、就職活動を早い時期から始める傾向があり、参加しなかった学生に比べて早い時期に内定を受けている。課外活動により養われるコミュニケーション力や協調性など社会人基礎力等各種の能力が企業に評価されているものと考えられる。また、企業の採用活動が年々早期になっていることがグラフから読み取れる。



5 今後の課題

以上から、当面の就職支援活動に関して解決すべき課題は、採用活動早期化への対応するためのキャリア形成、早期内定獲得の指導・支援、就職率 100%達成のための対策の3つであると言える。

第1の点については、低学年からの就職意識形成とキャリア形成をよりシステム化された形で構築すること。ゼミでの指導－キャリア科目－専門科目（資格取得）－就職関連行事等の有機的に、学年進行型の体系的システムとして構築する必要がある。

第2の点については、過去の分析から明らかなように、まず、サークル等課外活動やインターンシップへの参加者拡大を追求する必要がある。同時に、体験・参加型授業などによる社会人基礎力の形成を進めるとともに、きめ細かいキャリアカウンセリングの充実を図る必要がある。

第3の点については、上記2点の進み具合によるが、何より重要なのは、学生が主体性を持ち目標を達成する力＝人間力・社会人基礎力の形成である。現代GPプログラムで開始したゼミ中心の目標マネジメント方式による人間力・社会人基礎力形成の成果が問われることになる。